

米国研究大学のこれまでと抱える課題

阿曾沼 明裕
東京大学大学院教育学研究科

1

目的と内容

目的：

米国の研究大学はどのような財政基盤と構造を持つのか？
そのメカニズムは？ 今後の課題は？

内容：

1. 米国の高等教育の資金の流れ
2. 高等教育機関の財源構成
3. 研究大学の位置と特徴
4. 財源構成から見た研究大学の多様性
5. メカニズム
6. 抱える課題

※データ：

IPEDS-Integrated Postsecondary Education Data System
2022-2023年データ、及び2018-2019データを使用

2

政府の高等教育資金のフロー

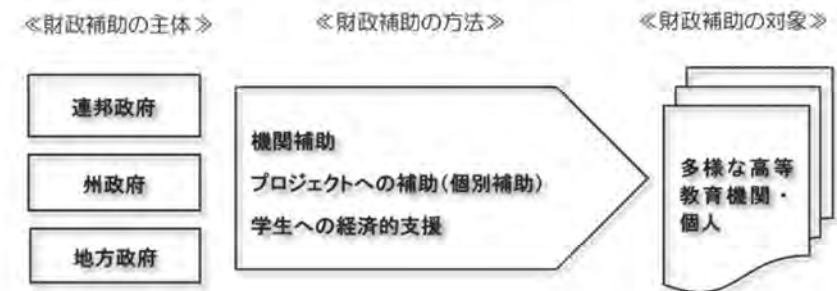


図1 政府資金のフロー：財政補助の主体・方法・対象

阿曾沼(2020c)の図1

3

1. 米国の高等教育の資金の流れ

4

表1 カーネギー高等教育機関基本分類(2021)

博士大学	Doctoral Universities: Very High Research Activity(R1) ← 「研究大学」 Doctoral Universities: High Research Activity (R2) Doctoral/Professional Universities (D/PU)
修士大学	Master's Colleges & Universities: Larger Programs Master's Colleges & Universities: Medium Programs Master's Colleges & Universities: Small Programs
学士カレッジ	Baccalaureate Colleges: Arts & Sciences Focus Baccalaureate Colleges: Diverse Fields
学士/准学士カレッジ	Baccalaureate/Associate's Colleges: Mixed Baccalaureate/Associate's Baccalaureate/Associate's Colleges: Associate's Dominant
准学士カレッジ	Associate's Colleges: High Transfer-High Traditional Associate's Colleges: High Transfer-Mixed Traditional/Nontraditional Associate's Colleges: High Transfer-High Nontraditional Associate's Colleges: Mixed Transfer/Career & Technical-High Traditional Associate's Colleges: Mixed Transfer/Career & Technical-Mixed Traditional/Nontraditional Associate's Colleges: Mixed Transfer/Career & Technical-High Nontraditional Associate's Colleges: High Career & Technical-High Traditional Associate's Colleges: High Career & Technical-Mixed Traditional/Nontraditional Associate's Colleges: High Career & Technical-High Nontraditional
四年制単科大学	Special Focus Four-Year: Faith-Related Institutions Special Focus Four-Year: Medical Schools & Centers Special Focus Four-Year: Other Health Professions Schools Special Focus Four-Year: Research Institutions Special Focus Four-Year: Engineering and Other Technology-Related Schools Special Focus Four-Year: Business & Management Schools Special Focus Four-Year: Arts, Music & Design Schools Special Focus Four-Year: Law Schools Special Focus Four-Year: Other Special Focus Institutions
二年制単科大学	Special Focus Two-Year: Health Professions Special Focus Two-Year: Technical Professions Special Focus Two-Year: Arts & Design Special Focus Two-Year: Other Fields
部族カレッジ	Tribal Colleges
不明	Not applicable, not in Carnegie universe (not accredited or nondegree-granting)

出典：Carnegie Classification of Institutions of Higher Education
(<https://carnegieclassifications.acenet.edu/carnegie-classification/>) より作成

表2 財政補助の主体・方法(2023会計年度、百万\$)

		連邦政府		州政府		地方政府		計	
機関補助	機関補助	3,142	1.2%	92,551	35.0%	17,492	6.6%	113,185	42.8%
	施設整備機関補助							9,012	3.4%
個別補助(研究)	事業補助・委託	70,407	26.6%	13,561	5.1%	3,781	1.4%	87,749	33.2%
	独立事業補助(連邦契約研究所)	10,699	4.0%					10,699	4.0%
個別補助(学生)	奨学金	31,475	11.9%	12,068	4.6%	297	0.1%	43,840	16.6%
計		124,736	47.2%	118,180	44.7%	21,569	8.2%	264,485	100.0%

出典：IPEDSより集計、阿曾沼(2020c)表1を修正

表3 財政補助の主体・方法・対象の主要な関係(2023会計年度、百万\$)

	連邦政府					州政府					地方政府		計
	事業補助・委託		奨学金			事業補助・委託		機関補助			事業補助・委託	機関補助	
	公立	私立	公立	私立	営利	公立	私立	公立	公立	私立	公立	公立	
博士大学R1(研究大学)	30,215	26,706	4,990	799	0	4,502	611	33,532	2,905	97	654	216	105,227
博士大学R2	3,312	3,770	2,580	446	0	1,009	132	12,753	1,540	149	128	7	25,826
博士大学D/PU	258	620	634	952	804	161	169	2,088	290	417	12	0	6,407
修士大学	1,388	1,106	3,299	1,875	725	961	196	13,539	2,062	805	84	156	26,196
学士カレッジ	194	996	536	955	56	200	156	1,649	205	438	11	8	5,406
学士/準学士カレッジ	547	57	1,674	136	113	671	7	4,080	582	27	187	1,547	9,628
準学士カレッジ	3,104	17	7,960	45	133	3,839	2	20,314	2,185	17	435	15,525	53,576
4年制単科大学	3,905	4,249	52	338	345	690	196	3,793	39	104	1,607	2	15,319
2年制単科大学	6	14	15	154	546	26	3	32	3	5	2	11	817
部族カレッジ	221	80	50	11	0	4	2	16	4	1	3	17	411
不明	398	45	197	74	1,174	485	6	3,970	77	11	134	1,696	8,269
計	43,550	37,661	21,986	5,785	3,897	12,549	1,481	95,767	9,893	2,072	3,257	19,186	257,084

注：全ての補助方法が含まれているわけではないが、全体の約97%に相当する。
出典：IPEDSより作成。阿曾沼(2020c)表5を修正。

高等教育機関への政府補助金のフロー

- 政府補助全体は2,645億ドル、連邦政府と州政府で半々、地方政府は僅か
- 機関補助1,221億ドル、事業補助・委託(主に研究助成金)984億ドル、政府奨学金438億ドル(連邦政府学生ローンを除く)、機関補助：研究助成：奨学金=46:37:17
- 連邦政府は、主に事業補助・委託(研究助成等)と奨学金で補助。研究助成金は公立研究大学と私立研究大学で半々、奨学金は研究大学、コミュニティ・カレッジ、博士大学R2、修士大学へ
- 州政府は、主に機関補助で補助。事業補助・委託や奨学金で補助するが、8割は機関補助。大部分は公立大学へ
- 地方政府は、主に機関補助で補助。主にコミュニティ・カレッジ(2年制短期大学)に補助。
- 設置形態別では、政府補助の82%が公立大学に、18%が私立大学に
- 機関類型別では、政府補助の41%が研究大学に、21%が準学士カレッジに、10%が修士大学、博士大学R2に

表4 政府資金のフロー（簡略化）

	学生支援	研究助成	機関補助	（税免除）
連邦政府	◎ 多様な機関	◎ 研究大学へ	○	◎ 研究大学へ
州政府	○	○	◎ 州立大学へ	○
地方政府	○	○	○ コミュニティ・カレッジへ	○

教育に責任を持つのは連邦ではなく州

合衆国憲法修正第10条は、憲法で合衆国に付与されない権限は州にあるとされ、各州憲法には教育に関する規定があり、アメリカでは教育は州が責任をもつ。
連邦教育省（Department of Education）は州を補助・調整。例えば高等教育法（HEA, 1965）で学生への経済的支援。

高等教育の資金の流れ

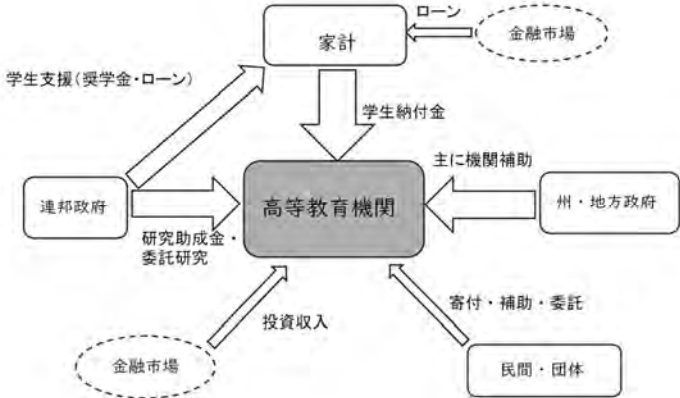


図2 高等教育の資金の流れ

（参考）規模のイメージ（2023年）

- 高等教育機関の年間総収入 7,887億ドル・・・79兆円
- 政府資金 2,645億ドル・・・26兆円
 - 政府機関補助 1,222億ドル・・・12兆円
 - 政府事業補助・委託（研究助成） 984億ドル・・・10兆円
 - 政府奨学金 438億ドル・・・4兆円
- 学生納付金総額 1,852億ドル・・・19兆円
- 病院収入総額 1,257億ドル・・・13兆円
- 投資収入総額 335億ドル・・・3兆円
- エンダウメント総額 8,473億ドル・・・85兆円
（以上はIPEDSで計算、以下米国関係資料から）
- 連邦学生ローン支援額 約828億ドル・・・8兆円
- 学生ローン債務残高 約1.6兆ドル以上・・・160兆円

※高等教育機関の年間総収入は、カーネギー高等教育機関分類と設置形態の不明な機関は除いた機関の機関収入の総和である。
※2023年の購買力平価・為替レートは1ドル95.3円（OECD）、青字はイメージしやすく、1ドルおよそ100円で換算したもの。

2. 高等教育機関の財源構成

※コロナ禍以降は投資収入などで不安定なため、とりあえず今回は、コロナ以前の状況を把握する。以下のIPEDSデータは、2018-19、財務データは2019会計年度数値を使用。

主要財源とコア財源

- 米国の高等教育機関の主要財源
 - 学生納付金（授業料や手数料）収入
 - 政府機関補助（日本の国立大学の運営費交付金のようなもの）
 - 政府奨学金 ← 公立で実質機関補助、授業料ディスカウント、「**政府事業外補助**」に
 - 政府の研究助成金・受託費 ← 「**政府事業補助・委託**」の主要部分
 - 民間・団体からの寄付・補助金・委託
 - 投資収入 ← エンダウメント（寄付資産、基本財産）の投資収入
 - 病院収入
 - 教育事業収入 ← 通常の教育研究活動以外の教育活動による収入、試験提供、大学出版等
 - 補助事業収入 ← 学生寮、学食、学生保健管理、購買部等のサービスによる収入
 - その他
- 「**コア財源**」への着目（阿曾沼2020b）

コア財源＝学納金収入＋政府機関補助＋政府事業外補助（政府奨学金等）

教育機関としての大学の一般的な財源（コア財源以外は「機能的財源」）

大学の運営費の中核をなす基盤的な資金（一般大学資金UGF）の主要財源

学生数規模に規定される

コア財源依存型＝財源の半分以上をコア財源に依存

財源多様型＝コア財源が半分未満

※本報告でのコア財源は、IPEDSで使用されている“Core Revenue”とは異なる。

13

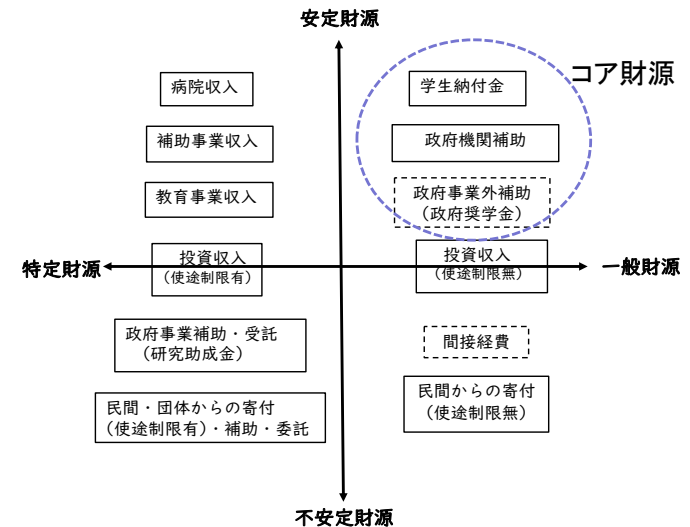


図3 米国の高等教育機関の財源の分類

出典：阿曾沼（2020b）図4を修正。

14

高等教育機関の財源構成

- 全米の高等教育機関を、機関類型と設置形態でグループ分け、それぞれの機関群の平均の財源構成（機関群の総和の財源構成）→図4
- 財源構成のパターン
 - ① 「**コア財源依存型・私学指向**（学生納付金に依存）」
営利機関、私立・2年制単科大学、私立・準学士カレッジ、私立・学士／準学士カレッジ、私立・修士大学、私立・博士大学D/PU
 - ② 「**コア財源依存型・公立指向**（学生納付金＋州機関補助に依存）」
公立の2年制単科大学、公立準学士カレッジ、公立学士／準学士カレッジ、公立修士大学、公立学士カレッジ、公立・博士大学D/PU、公立・博士大学2
 - ③ 「**財源多様型**（コア財源より機能的財源に依存）」
私立・学士カレッジ、私立・博士大学2、医科大学を含む私立・四年制単科大学、公立・四年制単科大学、**私立・研究大学**、**公立・研究大学**
 - ④ 「**政府依存型**（ほぼ全面的に政府資金に依存）」
部族カレッジ
- **研究大学：低いコア財源比率**。政府事業補助・委託（研究助成）、民間寄付・補助・委託、投資収入、病院収入の比率が大きい。**財源多様型の典型**。公立と私立との違いは、公立の機関補助を私立では投資収入がカバー。

15

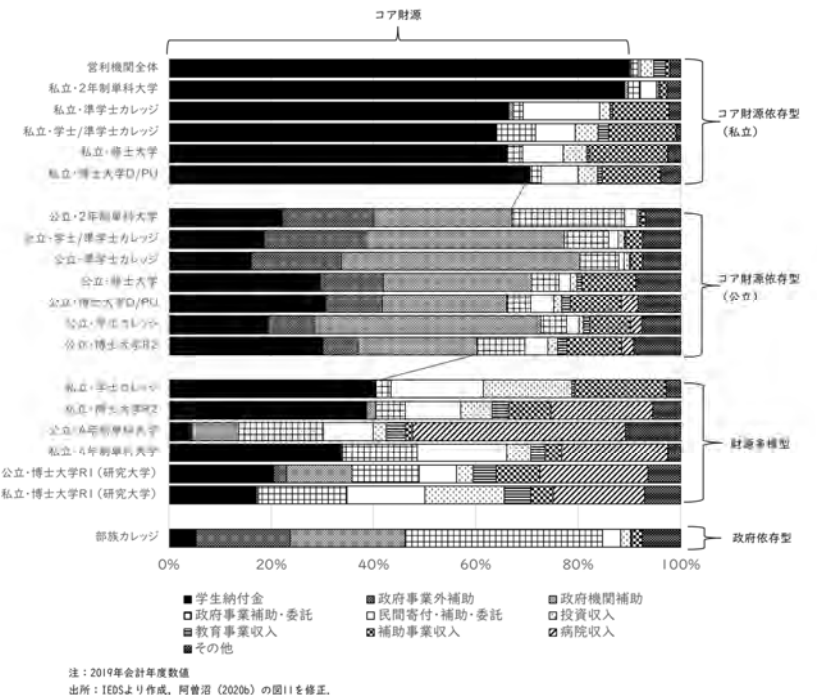


図4 米国の高等教育機関の財源構成

16

3. 研究大学の位置と特徴

研究大学は少数

表5 機関類型・設置形態別に見た高等教育機関の機関数(2018-2019)

	公立		私立		営利		計	
博士大学 R 1 (研究大学)	94	1.7%	37	0.7%			131	2.3%
博士大学 R 2	89	1.6%	43	0.8%			132	2.4%
博士大学 D/P U	28	0.5%	101	1.8%	9	0.2%	138	2.5%
修士大学	245	4.4%	352	6.3%	35	0.6%	632	11.3%
学士カレッジ	94	1.7%	373	6.7%	17	0.3%	484	8.7%
学士/準学士カレッジ	130	2.3%	33	0.6%	38	0.7%	201	3.6%
準学士カレッジ	832	14.9%	20	0.4%	57	1.0%	909	16.3%
4年制単科大学	36	0.6%	541	9.7%	160	2.9%	737	13.2%
2年制単科大学	10	0.2%	55	1.0%	235	4.2%	300	5.4%
部族カレッジ	27	0.5%	7	0.1%			34	0.6%
非認定・非学位授与機関	309	5.5%	146	2.6%	1439	25.7%	1894	33.9%
計	1894	33.9%	1708	30.5%	1990	35.6%	5592	100.0%

注：機関類型と設置形態の記載のない機関は除く。

出典：IPEDSより作成、阿曾沼（2020a）表1を修正。

研究大学は大規模

表6 機関類型・設置形態別に見た学生数(2018-2019)

	公立		私立		営利		計	
博士大学 R 1 (研究大学)	2,890,295	19.4%	628,196	4.2%	0.0%		3,518,491	23.6%
博士大学 R 2	1,228,446	8.2%	381,155	2.6%	0.0%		1,609,601	10.8%
博士大学 D/P U	309,661	2.1%	526,520	3.5%	240,269	1.6%	1,076,450	7.2%
修士大学	1,818,506	12.2%	1,077,293	7.2%	160,679	1.1%	3,056,478	20.5%
学士カレッジ	208,438	1.4%	500,470	3.4%	15,467	0.1%	724,375	4.9%
学士/準学士カレッジ	723,308	4.9%	28,366	0.2%	37,552	0.3%	789,226	5.3%
準学士カレッジ	3,124,861	21.0%	9,090	0.1%	21,333	0.1%	3,155,284	21.2%
4年制単科大学	67,607	0.5%	298,628	2.0%	131,661	0.9%	497,896	3.3%
2年制単科大学	7,141	0.0%	18,989	0.1%	105,328	0.7%	131,458	0.9%
部族カレッジ	9,244	0.1%	2,359	0.0%	0.0%		11,603	0.1%
非認定・非学位授与機関	82,307	0.6%	22,344	0.1%	223,355	1.5%	328,006	2.2%
計	10,469,814	70.3%	3,493,410	23.4%	935,644	6.3%	14,898,868	100.0%

注：学生数はフルタイム換算秋学期在籍者数。機関類型と設置形態の記載のない機関は除く。

出典：IPEDSより作成、阿曾沼（2020a）表2を修正。

機関収入は研究大学に集中

表7 機関類型・設置形態別の年間機関収入総額(2019FY、百万ドル)

	公立		私立		営利		計	
博士大学 R 1 (研究大学)	204,358	31.0%	127,663	19.3%	0	0.0%	332,020	50.3%
博士大学 R 2	39,141	5.9%	24,801	3.8%	0	0.0%	63,942	9.7%
博士大学 D/P U	7,946	1.2%	15,566	2.4%	4,176	0.6%	27,688	4.2%
修士大学	41,796	6.3%	25,763	3.9%	2,676	0.4%	70,235	10.6%
学士カレッジ	6,549	1.0%	23,080	3.5%	347	0.1%	29,976	4.5%
学士/準学士カレッジ	11,241	1.7%	642	0.1%	719	0.1%	12,601	1.9%
準学士カレッジ	55,443	8.4%	227	0.0%	371	0.1%	56,041	8.5%
4年制単科大学	32,535	4.9%	23,012	3.5%	3,148	0.5%	58,695	8.9%
2年制単科大学	124	0.0%	542	0.1%	1,641	0.2%	2,308	0.3%
部族カレッジ	374	0.1%	103	0.0%	0	0.0%	477	0.1%
非認定・非学位授与機関	1,862	0.3%	339	0.1%	3,600	0.5%	5,802	0.9%
計	401,367	60.8%	241,739	36.6%	16,678	0.1%	659,784	100.0%

注：数値はグループの年間機関収入の総額。単位は百万ドル。機関類型と設置形態の記載のない機関は除く。

出典：IPEDSより作成、阿曾沼（2020a）表4を修正。

エンダウメントも研究大学に集中

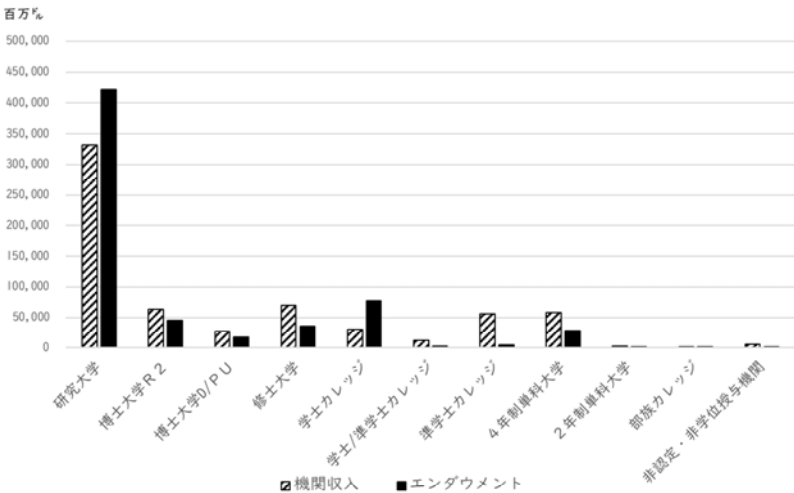
表8 機関類型・設置形態別のエンダウメント総額(2019FY、百万ドル)

	公立		私立		営利	計	
博士大学 R 1 (研究大学)	129,488	20.4%	292,609	46.2%		422,097	66.6%
博士大学 R 2	16,016	2.5%	29,035	4.6%		45,051	7.1%
博士大学 D/P U	2,351	0.4%	15,458	2.4%		17,810	2.8%
修士大学	10,321	1.6%	25,280	4.0%		35,600	5.6%
学士カレッジ	2,115	0.3%	75,100	11.9%		77,215	12.2%
学士/準学士カレッジ	1,643	0.3%	579	0.1%		2,222	0.4%
準学士カレッジ	4,661	0.7%	136	0.0%		4,797	0.8%
4年制単科大学	8,113	1.3%	20,188	3.2%		28,301	4.5%
2年制単科大学	7	0.0%	37	0.0%		43	0.0%
部族カレッジ	127	0.0%	25	0.0%		151	0.0%
非認定・非学位授与機関	141	0.0%	241	0.0%		381	0.1%
計	174,982	27.6%	458,687	72.4%		633,669	100.0%

ープのエンダウメント総額、単位は百万ドル。機関類型と設置形態の記載のない機関は除く。

出典：IPEDSより作成、阿曾沼（2020a）表7を修正。

機関収入とエンダウメントの偏在



出典：IPEDSより作成、阿曾沼（2020a）図3を修正

図4 機関類型別の機関収入とエンダウメント (2019FY)

研究大学は総合大学

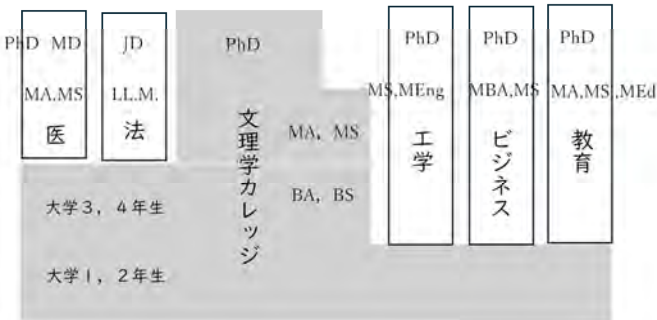


図5 研究大学の組織構成（館（1995）74頁、図1を参考に）

- 研究大学は多くは総合大学
 - 文理学カレッジ+複数のプロフェッショナル・スクール（+病院）
 - ※文理学カレッジの位置が弱い大学もある。
- リベラル・アーツは教養教育ではなく専門分野
 - リベラル・アーツ専門分野、自由学芸分野、文理学分野
- 文理学カレッジ≡日本の文学部+理学部+教養課程

表9 カネギー分類での学士レベルでのリベラル・アーツ専門と職業・技能専門の区分

リベラル・アーツ専門 liberal arts disciplines	職業専門 occupational and technical disciplines
英語・英文学 English language and literature	農業 agriculture
外国語 foreign languages	保健関連職 allied health
文芸 letters	建築 architecture
自由・総合研究 liberal and general studies	ビジネス・経営 business and management
生命科学 life sciences	コミュニケーション communication
数学 mathematics	自然資源・保護 conservation and natural resources
哲学・宗教学 philosophy and religion	教育 education
物理科学 physical sciences	工業 engineering
心理学 psychology	健康科学 health sciences
社会科学 social sciences	家庭経済 home economics
視覚・演芸芸術 the visual and performing arts	法律・法研究 law and legal studies
地域・民族研究 area and ethnic studies	図書館・公文書科学 library and archival sciences
マルチ・学際研究 multi- and interdisciplinary studies	マーケティング・流通 marketing and distribution
	軍事科学 military sciences
	保護サービス protective services
	公経営・サービス public administration and services
	神学 theology

出典：館昭（2006）表1-1

Carnegie A Classification of Institutions of Higher Education 1994 edition

プロフェッショナル・スクールとPh.D.

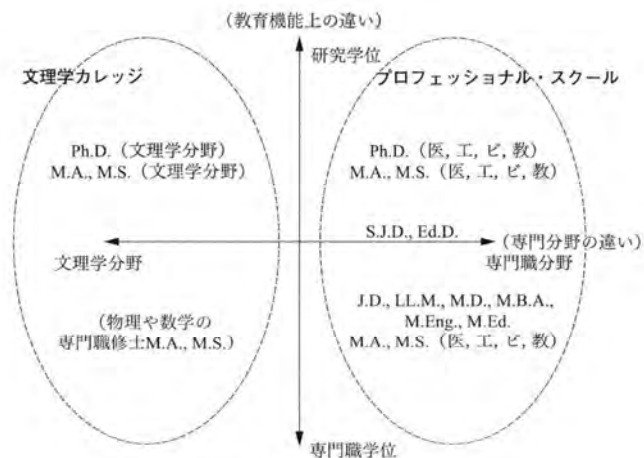


図6 スクールと学位

出典：阿曾沼 (2014) 図4-1

※リベラル・アーツの博士学位Ph.D.の過半はプロフェッショナル・スクールで

25

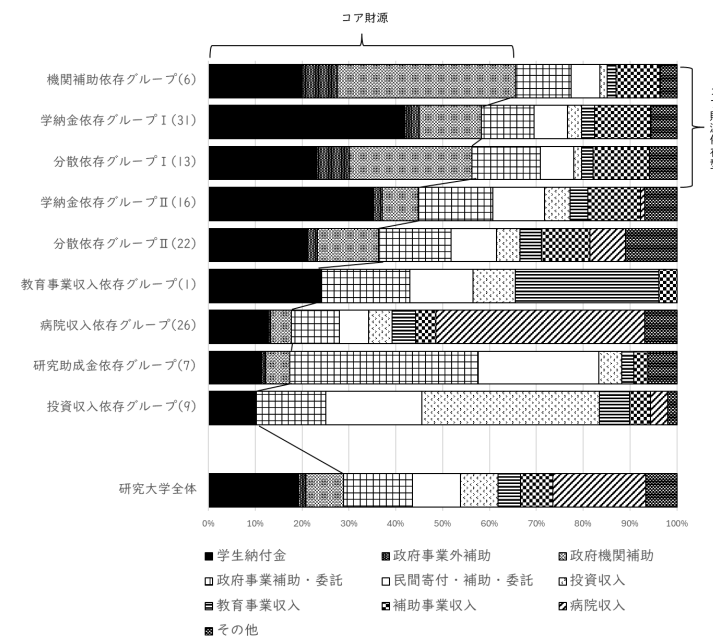
4. 財源構成からみた 研究大学の多様性

26

研究大学の多様性 (財源構成の多様性)

- 研究大学を平均で見れば、コア財源依存が低く、財源多様型
- しかし、研究大学の財源構成に多様性 (大学による違い)
 - ◆ 学納金依存グループ I (Syracuse, Indiana, UC-Santa Barbara) 31大学
 - ◆ 学納金依存グループ II (Georgetown, Tufts, CMU, UC-Berkeley, Purdue) 16大学
 - ◆ 機関補助依存グループ (CUNY-GC, Buffalo, Albany, Florida State) 6大学
 - ◆ 研究助成金依存グループ (Caltech, Johns Hopkins, Chicago, Pittsburgh) 7大学
 - ◆ 投資収入依存グループ (Princeton, MIT, Stanford, Harvard, Yale) 9大学
 - ◆ 病院収入依存グループ (Rochester, U-Penn, Michigan, UCLA, NYU) 26大学
 - ◆ 分散依存グループ I (Maryland, Georgia, Oklahoma State, Tennessee) 13大学
 - ◆ 分散依存グループ II (Cornell, Wisconsin, Illinois, Northwestern) 22大学
 - ◆ 教育事業依存グループ (Columbia) 1大学
- 「〇〇依存」=〇〇の財源に最も依存
- 財源内訳で3割を超える財源があると、一部の例外を除いて、同時にそれ以外の財源で3割を超える財源が出てこない。3割越えがあるとそれが最大財源となる
- 分散依存は、3割を超える財源がない場合
- Iのグループは、5割以上を「コア財源」に依存し、IIのグループは、「コア財源」への依存が5割に満たない。

27



注：2019年会計年度数値
出所：IEDSより作成，阿曾沼 (2022) の図1を修正。

図7 米国研究大学のグループ別の財源構成

28

表10 米国研究大学の財源構成とグループ分け (抜粋、2019年数値)

研究大学グループ	大学名	学生納付金	政府事業外補助	政府機関補助	補助・委託・補助・委託	投資収入	教育事業収入	補助事業収入	病院収入	その他	コア財源比率	設置形態	病院	医学部
学納金依存グループⅠ (31)	Northeastern University	66.7%	0.0%	0.0%	9.4%	7.0%	5.2%	0.0%	10.1%	0.0%	1.5%	66.7%	私立	—
	Syracuse University	56.9%	0.0%	0.1%	13.7%	8.7%	6.7%	0.6%	12.8%	0.0%	0.0%	57.0%	私立	—
	Boston University	51.7%	0.0%	0.0%	13.1%	9.4%	6.2%	4.8%	12.8%	0.0%	2.1%	51.7%	私立	—
	Arizona State University Campus Immersion	50.7%	2.3%	10.3%	10.0%	5.2%	2.2%	2.8%	6.5%	0.0%	2.5%	70.8%	公立	—
	Indiana University-Bloomington	44.7%	1.9%	13.0%	7.2%	6.6%	6.6%	0.3%	16.1%	0.0%	4.8%	60.4%	公立	—
	University of California-Santa Barbara	36.3%	3.5%	18.3%	10.7%	12.9%	1.8%	0.7%	11.9%	0.0%	3.5%	58.5%	公立	—
	University of Massachusetts-Amherst	30.5%	2.0%	28.1%	8.9%	4.6%	2.8%	0.8%	20.7%	0.0%	1.7%	60.5%	公立	—
学納金依存グループⅡ (13)	Georgetown University	46.5%	0.0%	0.0%	9.0%	18.7%	0.0%	2.8%	10.1%	0.0%	13.0%	46.5%	私立	—
	Tufts University	41.1%	0.0%	0.5%	14.3%	17.5%	8.1%	10.5%	5.8%	0.0%	2.2%	41.6%	私立	—
	Carnegie Mellon University	38.3%	0.0%	0.0%	24.9%	13.2%	12.9%	0.0%	4.7%	0.0%	6.1%	38.3%	私立	—
	Purdue University-Main Campus	33.5%	1.3%	15.0%	12.5%	9.2%	7.8%	6.1%	10.0%	0.0%	4.8%	44.7%	公立	—
	University of California-Berkeley	31.9%	1.5%	14.5%	15.5%	17.4%	4.8%	3.0%	6.5%	0.0%	4.8%	47.4%	公立	—
	University at Buffalo	23.8%	5.9%	41.1%	12.3%	5.4%	0.7%	0.0%	5.5%	0.3%	4.8%	70.9%	公立	有
	University at Albany	18.5%	9.0%	37.3%	17.8%	5.3%	0.7%	0.0%	10.4%	0.0%	1.0%	64.8%	公立	—
研究助成金依存グループ (7)	California Institute of Technology	1.3%	0.0%	0.0%	88.2%	4.9%	4.5%	0.0%	1.4%	0.0%	-0.3%	1.3%	私立	—
	Johns Hopkins University	8.3%	0.0%	0.3%	37.1%	39.2%	2.6%	0.0%	1.3%	0.0%	11.2%	8.6%	私立	有
	University of Chicago	10.6%	0.0%	0.0%	35.4%	28.6%	9.6%	6.0%	3.5%	0.0%	6.5%	10.6%	私立	—
	Princeton University	5.3%	0.0%	0.0%	12.3%	17.0%	60.6%	1.4%	3.1%	0.0%	0.4%	5.3%	私立	—
投資収入依存グループ (9)	Massachusetts Institute of Technology	7.3%	0.0%	0.0%	29.0%	17.6%	37.7%	0.0%	2.6%	0.0%	5.7%	7.3%	私立	—
	Stanford University	5.9%	0.0%	0.0%	17.8%	14.7%	35.8%	5.3%	4.6%	15.9%	0.0%	5.9%	私立	有
	Harvard University	13.0%	0.0%	0.0%	8.2%	31.1%	35.1%	7.0%	5.3%	0.0%	0.1%	13.0%	私立	有
	University of Rochester	6.0%	0.0%	0.0%	7.9%	4.2%	3.6%	0.4%	2.6%	74.3%	1.1%	6.0%	私立	有
病院収入依存グループ (26)	University of Pennsylvania	9.0%	0.0%	0.3%	6.9%	8.1%	8.1%	7.6%	1.1%	58.9%	0.0%	9.3%	私立	有
	Ohio State University-Main Campus	12.8%	1.0%	6.1%	6.4%	6.3%	3.2%	0.0%	6.9%	54.7%	2.7%	19.9%	公立	有
	University of Michigan-Ann Arbor	12.8%	0.3%	3.4%	10.8%	4.5%	8.5%	1.5%	3.8%	51.8%	2.5%	16.5%	公立	有
	Duke University	7.2%	0.0%	0.0%	10.3%	11.1%	14.1%	0.0%	3.5%	50.3%	3.5%	7.2%	私立	有
	University of Virginia-Main Campus	15.0%	0.3%	3.9%	7.8%	6.7%	10.1%	0.8%	3.5%	43.9%	8.0%	19.2%	公立	有
	University of California-Los Angeles	10.9%	0.7%	5.8%	9.0%	7.5%	1.6%	22.9%	5.5%	32.7%	3.5%	17.3%	公立	有
	University of Washington-Seattle Campus	15.9%	0.8%	5.7%	17.4%	6.5%	5.1%	3.9%	7.3%	32.2%	5.1%	22.3%	公立	有
	New York University	27.9%	0.0%	0.1%	7.9%	12.1%	2.0%	0.0%	5.6%	0.0%	44.4%	28.0%	私立	有
	Columbia University in the City of New York	24.0%	0.0%	0.2%	18.9%	13.4%	9.0%	30.7%	3.8%	0.0%	0.0%	24.2%	私立	有
	University of Maryland-College Park	25.5%	1.3%	25.1%	19.6%	6.6%	1.3%	1.6%	13.4%	0.0%	5.7%	51.8%	公立	有
	University of Georgia	26.4%	2.4%	28.8%	12.4%	7.9%	0.8%	6.1%	12.1%	0.0%	3.2%	57.6%	公立	有
	The University of Tennessee-Knoxville	24.0%	6.4%	26.7%	13.5%	3.3%	1.8%	2.6%	16.1%	0.0%	5.6%	57.1%	公立	有
分散収入グループⅠ (22)	Northwestern University	28.4%	0.0%	0.0%	22.8%	21.5%	11.7%	8.9%	4.0%	0.0%	2.8%	28.4%	私立	有
	Cornell University	27.9%	0.0%	15.0%	15.4%	11.2%	12.6%	8.1%	5.3%	0.0%	4.6%	42.0%	私立	有
	University of Illinois-Urbana-Champaign	27.0%	2.8%	9.2%	16.2%	8.2%	2.1%	2.2%	35.7%	0.0%	16.0%	29.7%	公立	有
	University of Wisconsin-Madison	21.1%	12.4%	18.7%	12.4%	2.0%	7.9%	5.6%	1.8%	9.9%	34.1%	公立	有	
	University of North Carolina at Chapel Hill	11.9%	3.5%	15.1%	20.1%	6.8%	0.0%	0.0%	26.3%	0.0%	5.9%	30.4%	公立	有
	University of Texas at Austin	13.9%	2.2%	9.6%	14.4%	8.3%	10.8%	8.3%	9.5%	0.2%	32.7%	25.8%	公立	有
	University of Texas at Austin	13.9%	2.2%	9.6%	14.4%	8.3%	10.8%	8.3%	9.5%	0.2%	32.7%	25.8%	公立	有
全平均	19.2%	1.5%	8.1%	14.7%	10.3%	8.0%	4.8%	6.9%	10.9%	6.6%	28.8%	—	—	
注：財源内訳で30%を超える財源がある場合はその財源に、30%を超える財源がない場合は最大比率の財源に影を付けた。また、コア財源比率が50%を超えるものにも影を付けた。														
Johns Hopkinsは民間寄付・補助・委託が大きい。研究助成・委託が多く、研究助成依存グループに入れた。New York Universityはその他が30%を超えるが、その大部分は診療収入と考えられる。														
出典：IPEDSより作成、阿曾沼 (2020c) 表3を修正、抜粋。														

29

5. メカニズム

研究大学を動かす5つの経済的メカニズム

5つのメカニズム

1. 研究経済 (research economy)

- 莫大な連邦研究助成金が研究活動を駆動
 - 特に自然科学、工学、医学
- 大学院特にPh.D. プログラムを駆動
 - RA経費 (授業料と生活費手当)、数百~数千のPh.D. 学生のスクールも研究助成金の獲得額がPh.D. プログラムの規模を左右
- 間接経費 (Indirect Cost) が大学の運営 (特にdepartment運営) をサポートする
 - FAC: Facilities and Administrative Cost
 - 外部資金は活動のフルコストにならない→大学に赤字をもたらす
 - 間接経費率問題

2. 専門職経済 (profession economy)

- 専門職制度がプロフェッショナル・スクールを駆動
- 研究大学では、研究学位Ph.D. プログラムでも、プロフェッショナル・スクールは重要
- 研究大学は、威信の高い専門職養成の中心地 MD、JD、MBAなど
 - 社会における強力な専門職
 - 高所得な専門職→大学教員の高い給与→高額授業料
 - 高い地位・所得→高いモチベーション→学生支援なくても大人気
 - 高所得を期待できる学生はローン、少ないRA、TA ←Ph.D. と違うメカニズム
- 研究大学の部局による分権的運営を支える

31

5つのメカニズム (続き)

3. 内部補助 (cross-subsidization)

- 内部補助=複合的な生産活動を行う事業体で、ある部門が他の部門を補助
 - 特に大学は教育と研究で統合生産、分離しがたい
- 学士教育が研究大学の基盤となる (研究大学は学士プログラムを持つ)
 - 学士プログラムの授業料収入→教員基本給、TA経費 (授業料と生活費手当) を通じ、Ph.D. プログラム、研究活動を支える
 - 特に文理学科レレッジ、工学、ビジネス、教育のスクール
 - 大規模な学士プログラムが大学院を支える→**研究大学が大規模**な理由の一つ
- 法律、ビジネス、教育等、学士プログラムのないスクール
 - 学士プログラム、研究助成金で研究者養成 (Ph.D. 等) をカバーできない
 - 専門職プログラムその他の収入がPh.D. を支える
- (儲かる) 専門職修士プログラムの拡大 →Ph.D. プログラムに貢献

4. 免税経済 (tax-exempt economy) 税制上の優遇・免除によって成り立つ仕組み

- 連邦政府による税制優遇、富裕層に有利な寄付制度
 - 所得控除で上限が大 (高い限界税率、節税率) →高所得者ほど限界税率が高い
 - 寄付の節税効果が大き→富裕層に強力なインセンティブ
- エンダウメントの収益への課税を免除 (2017年から課税)

5. 医療経済 (medicare economy) 高度な医療需要で成り立つ仕組み

- 研究大学が州や地域の医療センター的役割を果たすことで多くの収入

30

32

(参) 大学院を駆動するメカニズム －研究経済と専門職経済（阿曾沼2014）

【研究経済research economy】

- 連邦政府の膨大な科学研究費予算による研究助成金のフローが、大学の研究活動や大学院教育を駆動しているシステム
- 例) Ph.D. プログラム
- 高額ではない給与、高い機会費用、公共性 → 大学院生はRAに採用され授業料免除と生活費手当（給費）を受ける
- 学生支援がなければ学生は来ない

【専門職経済profession economy】

- 社会に強固な専門職制度が存在し、それが大学院教育を駆動することで成り立つシステム
- 例) J.D.、M.B.A.、M.D.等の専門職学位プログラム
- 高額な教員給与－高授業料－高所得サイクル → 学生は卒業後に高い所得や地位（リターン）を得るので、費用は受益者である個人が負担すべき（ローンでよい）
- 学生への支援がなくても学生は来る

33

6. 抱える課題

研究大学の危機としぶとさ

34

長きにわたって構築してきた経済基盤

- ◆ 連邦研究助成予算拡大へのロビー活動
Office of Government Relations [Federal Affairs]、
D.C. 常設オフィス、大学団体
 - ◆ 間接経費比率問題：外部資金による赤字を間接経費でカバー
 - ◆ 学生への経済的支援（奨学金、ローン）拡大にロビー活動。
→ 高等教育拡大、物価上昇以上の授業料高騰 → 機関収入拡大
 - ◆ 研究大学は大規模、学士教育の中核を担うことでコア財源を獲得
州立研究大学は、州政府が高等教育財政を担う構造を活用
但し州立大学への州機関補助の長期削減を学生納付金のカバーへ
大学院大学ではなく学士プログラムを必置 (Johns Hopkins)
 - ◆ 寄付拡大のため富裕層の税制優遇を政府に働きかけ
→ 格差の広がる社会の富を大学に
 - ◆ エンダウメントの投資収入への課税を抑えるように政府に働きかけ
← 実質政府補助金
- ※ 民主党（大きな政府）は連邦も州も大学に優しい → 大学は民主党寄り

35

トランプ政権による方向転換

- ◆ 研究助成金削減、研究費配分の変化？ → 学問研究の方向性の変化？ ⇒ 研究経済
- ◆ 間接経費削減（上限15%提案）
研究大学の運営へのダメージ、外部資金獲得incentive低下 ⇒ 研究経済
- ◆ 教育省縮小、学生支援縮小、バイデンの学生ローン大規模帳消しに反対
→ 家計負担増大、授業料高騰に歯止め、コア財源・授業料依存にダメージ ⇒ 内部補助
- ◆ 富裕層の寄付の優遇税制の是正（2025法改正One Big Beautiful Bill Act）
中間層小規模寄付控除、控除のフロア導入（年収0.5%以上のみ控除）
節税効果（寄付価値、寄付1ドルあたりの節税メリット）の縮小 ⇒ 免税経済
- ◆ エンダウメント・寄付資産の投資収益への課税
2017年の「税制改革法（Tax Cuts and Jobs Act, TCJA）」1.4%の課税導入
2025年7月、資産規模に応じた段階的課税へ移行、最大で8%に引き上げ ⇒ 免税経済

集金システムの再構築か

- ◆ エリート大学は政治活動を通じ、いわば社会の富を集金するシステムを構築
- ◆ トランプはそのシステムを壊す？ ← 反民主党・リベラル？
or 反知性・大学？ or 既得の富の集中を是正？ or 反大きな政府・DS
- ◆ 研究大学は抵抗できるのか？ 州への期待は限定的？
⇒ 民主党政権で元に戻る？ or 新体制に順応して新たなシステムを再構築？

36

参考文献

- 阿曾沼明裕（2014）『アメリカ研究大学の大学院－多様性の基盤を探る』名古屋大学出版会。
- 阿曾沼明裕（2018）「機能分化した米国高等教育システムにおける研究大学の位置」『名古屋大学大学院 教育発達科学研究科紀要（教育科学）』64(2)、29-51頁。
- 阿曾沼明裕（2020a）「米国高等教育機関の多様性と財源構造（その1）」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』67(1)、1-15頁。
- 阿曾沼明裕（2020b）「米国高等教育機関の多様性と財源構造（その2）」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』67(1)、17-35頁。
- 阿曾沼明裕（2020c）「米国の高等教育機関に対する政府財政補助の規模とフロー－個別大学データベースIPEDSを利用して－」『アメリカ教育研究』30、28-33頁。
- 阿曾沼明裕（2022）「米国における研究大学の財源構成の多様性－学問の社会的基盤に関する一考察－」『アメリカ教育研究』32、53-73頁。
- James, Estelle (1986). "Cross-Subsidization in Higher Education," in *Private Education*. ed. Levy, Daniel C. New York: Oxford University Press.
- Geiger, Roger L. 1993. *Research and relevant knowledge : American research universities since World War II*. New York: Oxford University Press.
- Labaree, D. F. (2017) *A Perfect Mess: The Unlikely Ascendancy of American Higher Education*. Chicago: The University of Chicago Press.
- 館昭（1995）『現代学校論－アメリカ高等教育のメカニズム－』放送大学教育振興会。
- 館昭（2006）『原点に立ち返っての大学改革』東信堂。
- 山本真一（1992）「大学の研究支援メカニズムの考察－米国におけるIndirect Costs概念を中心に－」『大学論集』第21集、299-316頁。

ご清聴ありがとうございました。